

本時の視点	小中連携の実践的な取組
-------	-------------

1 単元 Unit 7 Foreign Artists in Japan (NEW HORIZON English Course 1)

2 目標

AETの友人におすすめの観光ツアーを分かりやすく提案するために、その人の好きなことや興味のあるものについて聞き取ることができる。また、互いの提案について即興で質疑応答したり、感想を伝え合ったりすることができる。

3 関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと	ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。
話すこと [やり取り]	ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。

4 単元の評価規準

	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<知識>	<技能>		
聞くこと	代名詞や疑問詞 which, whose などを用いた文の意味を理解している。	代名詞や疑問詞 which, whose などを用いた文の理解をもとに、人や文化などについて話されるスピーチや対話の必要な情報を聞き取る技能を身に付けている。	AETの友人におすすめの観光ツアーを分かりやすく提案するために、その人の好きなことや興味のあるものについて話されるスピーチや対話の必要な情報を聞き取っている。	AETの友人におすすめの観光ツアーを分かりやすく提案するために、その人の好きなことや興味のあるものについて話されるスピーチや対話の必要な情報を聞き取ろうとしている。
話すこと [やり取り]		おすすめの観光ツアーの提案に関する質疑応答や感想を、代名詞や疑問詞 which, whose などを用いて伝え合う技能を身に付けている。	AETの友人におすすめの観光ツアーを分かりやすく提案するために、互いの提案について即興で質疑応答したり、感想を伝え合ったりしている。	AETの友人におすすめの観光ツアーを分かりやすく提案するために、互いの提案について即興で質疑応答したり、感想を伝え合おうとしている。

5 単元について

(1) 教材観

本単元では、主に日本の伝統工芸・芸能や文化に取り組む外国人が紹介されている。小学校6年生の外国語科では、世界と自分とのつながりについて考えてきた。持ち物や食べ物、動物など自分の身の回りのものから日本文化の特徴を振り返りながら、日本文化が海外の人々へ与える影響や、日本文化独自の歴史・特徴などについて、改めて理解を深めるよい機会である。

言語材料として、既習の疑問詞 What, Who, How, Where, Whenに加えて、Which と Whose が扱われている。生徒たちが主体的に疑問詞を活用することができるよう、聞きたい内容に合うように疑問詞を使ってやり取りする言語活動を設定しやすい単元である。また、普段の会話において、自分と相手以外の人について話すために代名詞は必須である。特に目的格や所有代名詞などは、繰り返しを避ける上でも頻繁に使われるため、主格以外の用法を自然に運用できる場の設定もしやすい単元である。

(2) 生徒の実態 (在籍 ■名)

本学級は、コミュニケーション活動に意欲的に取り組む生徒が多く、活発に意見を出し合い、考えを共有することができる。分からない表現は互いに質問したり、教え合ったりしており、生徒同士で助け合うことができる信頼関係の築かれた学級である。授業で覚えた表現を授業後にすぐに使う生徒が見られるなど、実際の生活場面の活用を通して楽しく学習している。

実態調査では、7割以上の生徒が小学校で習った表現を中学校の授業で使うことができていると回答した。そのため、ほとんどの生徒は小学校での学習をおおむね理解していることが分かる。「話すこと [やり取り]」や「聞くこと」に関して前向きな姿勢が見られ、普段のコミュニケーション活動においても、聞いた内容に対しての即興的なリアクションやコメントはよく定着している。しかし、いつも同じ表現を使っていたり、次の質問につながらずに会話が途切れてしまったりする場面も見られる。小学校で学んだ知識や技能を生かし、中学校では、自己表現をさらに高め、より発展的な会話を継続させることができるかが課題である。

英語に関する実態調査 調査人 ■名 令和3年7月19日実施

① Google Forms を利用したアンケート

- 1 小学校で習った表現を中学校の授業で使うことができている。

ア よくできている 4名	イ おおむねできている 17名	ウ どちらとも言えない 4名
エ どちらかというときでない 3名	オ 全くできていない 0名	
- 2 相手の言ったことに対して、興味をもって質問することができる。

ア よくできている 5名	イ おおむねできている 13名	ウ どちらとも言えない 8名
エ どちらかというときでない 0名	オ 全くできない 2名	
- 3 どのようなRCQ (リアクション・コメント・クエスチョン) ができるか。知っている表現を書きましょう。

R … Wow! Oh, really? Good! Nice! Great!

C … That's great. That's too bad. Me, too. I see. Lucky you!

Q … Why? What? Where? How many? Who is this? What ~ do you like?

Which do you like? How about you? など
- 4 授業の中で、一番好きな活動は何か。

ア 話すこと [やり取り] 8名	イ 話すこと [発表] 1名	ウ 聞くこと 9名
エ 読むこと 4名	オ 書くこと 6名	

② ミライシード・オクリンクの録音機能を使用したスピーキングテスト

- | | |
|----------------------|----------------------|
| A 評価…質問に英文で答えることができる | B 評価…質問に単語で答えることができる |
| C 評価…質問に何も答えることができない | |
- 1 Can you play the piano? A…24名 B…4名 C…0名
 - 2 What sport do you like? A…25名 B…3名 C…0名
 - 3 What do you have for breakfast? A…15名 B…12名 C…1名
 - 4 How do you come to school? A…23名 B…5名 C…0名
 - 5 How many pencils do you have? A…22名 B…5名 C…1名
 - 6 Where do you want to go? A…26名 B…2名 C…0名

(3) 指導観 (本分科会テーマについて)

本分科会では、小中連携の実践的な取組について研究を進めてきた。本校は、隣接校であることの強みを生かし、■■■■小学校と学習活動における情報交換や交流、カリキュラム連携において小中連携を行ってきている。外国語科においては、小中9年間を通したCAN-DO リストを作成し、中学校卒業年度の目標達成を見据え、各学年の達成目標を設定しながら授業を展開している。具体的な取組としては、小学校で使用したワークシートを中学校に引き継いだり、習得状況に合わせ、内容を発展させたリアクションシートを中学校でも活用させたりしている。また、小学校で習った表現を会話の中で生かすために、中間指導で想起させながら、既習表現の定着を図っている。さらに、授業の流れや振り返りシートなども共有しており、生徒たちは自然と中学校の英語学習へ移行することができる。今後も定期的に情報交換や児童・生徒が交流する場を設定し、引き続き小学校と共通理解・連携を図りながら研究を進めていきたい。

本単元では、生徒の実態を踏まえ、小学校外国語の素地を生かすとともに、疑問詞を繰り返し活用する場面を設定し、言語活動を行っていく。Small Talk や、MEET (Midorioka Enjoy English Time) という名で小中共同で行っている帯活動の中の3-Hint-Quiz など、やり取りの活動を通して、クローズド・クエスチョンのみならず、疑問詞を使いこなしたオープン・クエスチョンが大切であることに気付かせたい。また、小学校で使用したワークシートやリアクションシートを中学校の授業でも活用し、会話を継続させることができるよう、対話を発展させる質問やリアクションを想起させる場を繰り返し設定したい。さらに、本時で生徒が自信をもってやり取りすることができるよう、友達の発表を聞いて、質問したり答えたりしながらやり取りを続けていく場面を意図的に単元計画の中に設定する。本単元が、日本文化等を扱う内容であることや、オリンピックの開催も記憶に新しいことから、自国の文化を発信する大切さを考え、将来の実践的な活用にもつながるよう指導していきたい。

次	時	ねらい (■) 主な言語活動 (○)	知	思	態	評価の観点【評価方法】小学校との関連
1	1	<p>■単元の目標を理解する。</p> <p>■Previewの映像を見て人物についての情報を聞き取り、その内容を伝え合うことができる。</p> <p>○Previewを視聴し、聞き取った情報を伝え合う。</p> <p>■自分と相手以外の人々が何をやるか聞き取ったり、その人について質問したり答えたりすることができる。</p> <p>○AETが紹介する人物について、Guessing Gameを通して質問したり答えたりする。</p> <p>○AETがGuessing Gameの中で第2次の第3時に登場する友人を紹介し、ビデオ通話でやり取りをする。</p>				<p>本時では、学習状況を把握するが、記録に残す評価は行わない。</p> <p>・小6のUnit8にある「登場人物の中学校生活や将来の夢について話を聞いたり伝え合ったりする活動」につながる。</p>
	2	<p>■自分と相手以外の人を知るために、どのような人かを質問したり答えたりすることができる。</p> <p>○ペアで人称代名詞の目的格を使いながら、質問したり答えたりする活動を通して、相手の持っているカードに描かれた人物を当てる。</p>				<p>本時では、学習状況を把握するが、記録に残す評価は行わない。</p>
	3	<p>■文化や言葉、食べ物などについて知るために、どちらであるかを質問したり答えたりすることができる。</p> <p>○文化や言葉、食べ物などについて知るために、その情報についてのやり取りを聞いたり読んだりして、概要を捉える。</p>				<p>本時では、学習状況を把握するが、記録に残す評価は行わない。</p> <p>・小6のUnit6にある、「外国の食べ物について考えたり伝え合ったりする活動」から本単元につながる。</p>
	4	<p>■人について聞き取ったり、質問したり答えたりすることができる。</p> <p>○インタビュー活動を通して、代名詞や疑問詞 which などを用いて、質問したり答えたりする。</p> <p>○伝え合った内容を書く。</p>				<p>本時では、学習状況を把握するが、記録に残す評価は行わない。</p>
	5	<p>■グループで好きな人物やキャラクターについての発表を聞いて、即興で質問したり答えたりすることができる。</p> <p>○3人グループで好きな人物やキャラクターについて発表したり、それについて質問したり答えたりする。</p> <p>○伝え合った内容を書く。</p>				<p>本時では、学習状況を把握するが、記録に残す評価は行わない。</p>
	6	<p>■持ち主を知るために、誰のものかを質問したり答えたりすることができる。</p> <p>○疑問詞 whose などを用いて、持ち主が誰であるか質問したり答えたりする。</p>				<p>本時では、学習状況を把握するが、記録に残す評価は行わない。</p> <p>・小6のUnit6にある、「持ち物、動物、食べ物などについて友達に質問したり答えたりする活動」から本単元につながる。</p>
2	1	<p>■AETの友人の好みを知るために、AETの友人とのビデオ通話を通して、相手の好きなことや、興味のあることについて、必要な情報を聞くことができる。</p> <p>○各グループで、AETの友人に好みを質問することで、ツアーの提案に必要な情報を集める。</p> <p>○教師から提示されたルーブリックを参考に、グループで選んだ都道府県観光ツアー提案用のスライドを作成する。</p>		○	○	<p>『「聞くこと」の記録に残す評価』 (思考・判断・表現) 【観察・ワークシート】 (主体的に学習に取り組む態度)【観察】</p> <p>・小6のUnit3にある、「外国の人にメッセージカードを作り、スピーチをする活動」から本単元につながる。</p>

2 (本時)	<p>■AETの友人におすすめの観光ツアーを分かりやすく提案するために、互いの提案について即興で質疑応答したり、感想を伝え合ったりすることができる。</p> <p>○3人グループでおすすめの都道府県観光ツアーを発表したり、それについて質問したりして一番おすすめだと思うツアーを選ぶ。</p> <p>○ビデオ通話で代表のグループがAETの友人に提案、やり取りをする。</p>	○	○	<p>『話すこと [やり取り]』の記録に残す評価 (思考・判断・表現) 【録画・観察】 (主体的に学習に取り組む態度) 【録画・観察】 ・小6のUnit3にある、「行ってみたい国」についての友達の発表を聞き、それについて質問したり答えたりする活動から本単元につながる。</p>
	<p>3</p> <p>■既習表現を正しく用いて、おすすめの観光ツアーの提案について質疑応答したり、感想を伝え合ったりすることができる。</p> <p>○前時のやり取りを録画したモデル動画を視聴し、それをもとに良かった点や改善すべき点について話し合う。</p> <p>○話し合ったことを生かして、グループの組合せを変え、再度やり取りを行う。</p>	○		<p>『話すこと [やり取り]』の記録に残す評価 (知識・技能) 【録画】</p>
3	<p>1</p> <p>リスニングテスト</p> <p>○代名詞や疑問詞 which, whose などを用いた対話文から、必要な情報を聞き取ることができる。</p> <p>①日常的な話題をテーマとした対話文を2回聞く。</p> <p>②対話文の内容についての質問を聞き、解答する。(10問)</p>	○		<p>『聞くこと』の記録に残す評価 (知識・技能) 【リスニングテスト】</p>

*記録に残す評価を行わない場合においても、ねらいに即して生徒の活動の状況を確認に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。

7 本時の指導

(1) 目標

AETの友人におすすめの観光ツアーを分かりやすく提案するために、互いの提案について即興で質疑応答したり、感想を伝え合ったりすることができる。

(2) 準備

教科書、教師用PC、大型モニター、生徒用PC (ジャッジシート)

(3) 展開

学習活動・内容	指導上の留意点・評価 (◎本時の視点に迫るための手立て)	
	JTE	AET
<p>1 あいさつをする。 Good morning. How are you?</p> <p>2 帯活動 MEET (Midorioka Enjoy English Time) 【3-Hint-Quiz】を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>Topic : Country It's in South America. It's famous for soccer. You can see a carnival.</p> </div> <p>3 本時の活動を知る。 (1) 前時のAETの友人とのやり取りを振り返る。</p>	<p>・あいさつや生徒とのやり取りを通して、英語を学習する雰囲気をつくる。</p> <p>・やり取りによるグッドモデルを示すなどしながら、相手意識をもち、相手に伝わりやすい既習表現が使えるように助言する。</p> <p>・クイズに使う表現を意識して活動に取り組めるようにする。</p> <p>◎生徒とのやり取りを通して、AETの友人の好みを再度確認する。</p>	<p>・天気や日付を確認し、定着を図る。</p> <p>・生徒が英語でヒントを言えない場合には、表現の言い換えや簡単な語句や文をヒントとして用いて助言する。</p> <p>◎前時にビデオ通話で得た友人の好みを考慮してツアーを紹介するよう助言する。</p>

Where does he live?
When is he going to come to Japan?
What does he want to do in Japan?
What Japanese culture does he like?

(2) Today's Goal (本時の学習課題) を確認する。

AET の友人におすすめの観光ツアーを分かりやすく提案するために、友達の提案に対して質問したり、友達の質問に答えたりすることができる。

- ・質疑応答
- ・感想

◎今日一番のツアーはどれ?

4 Activity を行う。

(1) First Round

- ・3人1組で紹介する都道府県ごとのグループになり、リスナー側のグループへおすすめの都道府県の旅行プランをプレゼンする。(準備2分・発表2分)
- ・プレゼン後、リスナー側から発表したグループへ質問をし、プレゼンターはそれに答える。(3分)
- ・ジャッジのグループは、プレゼンターとリスナーのやり取りを観察・録画し、それぞれのグループに Google Forms を使ってポイントを入れる。
- ・プレゼンター、リスナー、ジャッジを交換しながら3グループが発表する。

A: We will talk about Kyoto tour.

B: Kyoto has many nice places, like Kinkakuji and Ginkakuji.

C: Kyoto has a lot of delicious food.

D: What food can we eat there?

C: We can eat yatsushashi, matcha sweets and so on.

E: What can we see in Kyoto?

B: We can see many shrines and temples.

(2) 中間指導

- ・他のグループのやり取りを見て、良かった点や改善点を話し合う。
- ・質問できなかつたり、答えられなかつたりした表現などを共有する。
- ・First Round を終えての各グループのポイントを確認する。

(3) Second Round

- ・First Round のグループの組み合わせを変え、First Round 同様の活動をする。

- ・ツアー作成にあたって、AET の友人についてさらに知りたいことがある場合は、AET に質問するよう促す。

◎目的ややり取りの視点を明確にし、生徒の学習意欲を高め、見通しをもって活動できるようにする。

◎前時に示したルーブリックを再度確認し、全体で共有する。

◎生徒とのやり取りを交えながらデモンストレーションすることで、質疑応答や感想を伝える時に使わせたい表現を意識させる。

- ・グループの組合せを分かりやすく掲示することでスムーズに活動できるようにする。

- ・発話量が偏らないように、毎回一人一回質問したり、解答したりする等、相手を意識して会話を継続するよう助言する。

- ・リスナーからの質問に答えられなかったことは、メモしておき後で生徒用PCを使って調べておくことを伝える。

- ・録画は次時の振り返りと教師の評価に使用する旨を全体で共有する。

◎やり取りが活発に行われていたグループにやり取りを再現するよう指示し、良かった点を全体で共有する。

◎生徒同士のやり取りを通して、生徒の伝えたかった表現を引き出し、共有する。

◎プレゼンター、リスナーとも、やり取りでは相手の発言にリアクションを返すよう促す。

- ・途中経過を集計し提示する。
- ・Second Round に向けて意欲を高める言葉かけをする。

- ・友人の好きなことや、これまで彼が経験したことなどを、生徒とのやり取りの中で伝える。

・役割分担等に戸惑っているグループに助言する。

- ・時間を計りながらやり取りを進行することで、Second Round で十分に活動できるようにする。

- ・発表ややり取りが止まっているグループには、表現の例を示すなど、必要に応じて助言する。

- ・グループ同士のやり取りが早く終わったときには、プレゼンターに質問をする。

- ・生徒のやり取りを聞いて、参考になりそうな表現を紹介する。

◎生徒同士のやり取りを通して、良かった点を称賛するとともに、Second Round に向けての改善点を助言する。

◎生徒の伝えたかった表現に対して英語で助言する。

<p>(4) AET の友人とビデオ通話をつなぎ、代表のグループがやり取りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • AET の友人にツアーを提案する。 • AET の友人から代表グループに質問してもらい、やり取りをする。 <p>5 Reflection Sheet へ授業の振り返りを記入する。</p>	<p>◎ 見ている生徒もリアクションを返すことや代表のグループが困ったときには助けるように促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 友人と代表グループとのやり取りを録画し、次時の振り返りで使用する。 • Reflection Sheet で振り返りを行い、次時への意欲につながられるようにする。 	<p>◎ AET の友人におすすめの観光ツアーを分かりやすく提案するために、互いの提案について即興で質疑応答したり、感想を伝え合ったりしている。</p> <p>(思考・判断・表現) 【録画・観察】</p> <p>AET の友人におすすめの観光ツアーを分かりやすく提案するために、互いの提案について即興で質疑応答したり、感想を伝え合おうとしている。</p> <p>(主体的に学習に取り組む態度) 【録画・観察】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 友人と代表グループとのやり取りを観察し、必要に応じて言い換えや言い直しをする。 • 生徒の努力を称賛し、後日、他のグループのプレゼンテーション映像も AET の友人に送ることを伝える。 • 良い点や改善点について生徒に伝え、次時へとつなげられるようにする。
--	---	---